

<水稻の栽培ポイント>

生育状況

6月中旬移植のとちぎの星・あさひの夢の出穂期は8月中旬頃（前年に比べて2日程度早い）となりました。気象庁の3か月予報（2023年8月22日発表）によると、収穫時期を迎える10月の天気は数日周期で変わり、気温は高く、降水量は多いと予想されています。

本年産は出穂期が早く、出穂期以降も高温が続いているため、収穫時期が早まる可能性があります。
また、高温の影響で胴割米が発生しやすくなっており、刈遅れによる品質低下が懸念されます。早めに刈取り準備を行い、適期に収穫できるようにしましょう。

1 刈取り準備

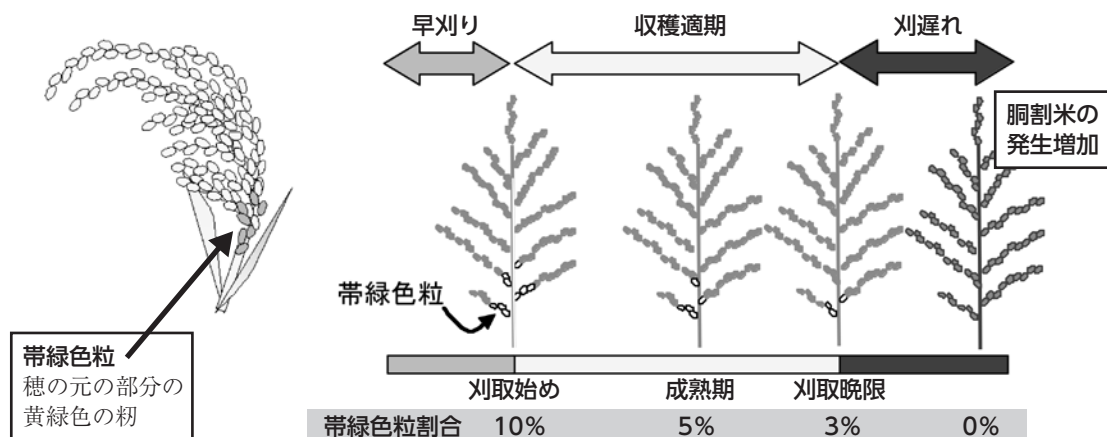
- ・コンバインや乾燥調製機等の清掃・整備を行い、異種穀粒・異品種の混入が無いようにしましょう。きちんと掃除したつもりでも、機械の中にはゴミが驚くほど残留しています。
- ・圃場内の雑草は刈取り前に抜取り、雑草の種子が混入しないようにしましょう。ライスセンターでは雑草種子などの夾雑物の多いものについては荷受をお断りする場合があります。

2 適期収穫

収穫作業は、帯緑色粉率が10%になったら開始し、3%になるまでに終了しましょう。刈り遅れの無いよう注意してください。刈り遅れると胴割米の発生、色沢・品質・食味の低下を招きます。また早刈りは青米が多くなり減収となりますので注意しましょう。

【刈取適期の判定方法】

- 平均的な生育をしている数か所で5～6本の穂をまとめて握ってみます。
- 穂全体に占める帯緑色粒の割合で判定します。10%から刈り始めましょう。



3 新規需要米について

新規需要米についても、主食用米と同様に早めの刈取り準備、圃場内の雑草の抜取りを行いましょう。

(裏面あり)

<麦類の栽培ポイント>

麦は全栽培期間を通じて湿害を受けやすい作物です。湿害対策等の基本技術を徹底し、高品質麦の生産に取り組みましょう。

1 湿害対策の徹底

- (1)播種直後は湿害に特に弱いので、稲刈り後の弾丸暗渠による早期の排水性向上が有効です。スタブルカルチ等を活用した心土破碎も圃場の排水性を良くします。
- (2)地表水の排水のための明渠を設置します。明渠は必ず圃場外の排水路とつなげてください。

2 土づくりと施肥

- (1)地力増進のため、良質な堆肥を10a当たり1,000kg程度施用しましょう。
また、土壌診断を行い、診断結果に基づいて苦土炭カル、ようりん、OM-37等を施用し土壌改善に努めましょう。
- (2)タンパク質含有率が低い場合は、肥効調節型肥料（JA足利麦専用「麦の香」等）を使用しましょう。
小麦はタンパク質含有率が低い傾向にあります。基準施肥量（窒素成分10～11kg/10a）を参考に、R5年産の成績に応じた施肥設計をしましょう。

3 適期播種・種子消毒

【播種期間の目安】 二条大麦：11月10日～25日 小麦：11月10日～20日
二条裸麦：11月10日～15日

気象庁の季節予報（1か月、3か月、寒候期予報）を参考にし、播種時期を決めましょう。

大麦斑葉病や小麦なまぐさ黒穂病などの種子伝染性病害予防のため、種子消毒を必ず実施しましょう。（例：ベンレートT水和剤20、ベフラン液剤25）

4 雑草防除

播種後に除草剤の全面土壌処理を行います。

令和5年9月1日時点での登録内容

雑草の種類	除草剤名	作物名	使用時期
一年生雑草	ボクサー	大麦	播種後～麦2葉期まで(雑草発生前～発生始期)
		小麦	播種後～麦4葉期まで(雑草発生前～発生始期)
	リベレーターフロアブル	大麦	播種後～麦3葉期まで
		小麦	(雑草発生前～イネ科雑草1葉期まで)
	リベレーターG	大麦	播種後～麦2葉期まで
		小麦	(雑草発生前～イネ科雑草1葉期まで)
一年生雑草 (ツユクサ科、カヤツリグサ科、 キク科、アブラナ科を除く)	ムギレンジャー乳剤	大麦	播種後～出芽前(雑草発生前)
		小麦	
	クリアターン乳剤	大麦	播種直後(雑草発生前)
		小麦	
一年生雑草 (ツユクサ科、カヤツリグサ科、 キク科、アブラナ科を除く)	トレファノサイド乳剤	大麦	播種後出芽前～3葉期 (雑草発生前～雑草発生始期)または、 生育期(雑草発生前)ただし、収穫45日前まで
		小麦	

※ボクサー・リベレーターフロアブル・リベレーターG・ムギレンジャー乳剤は、抵抗性スズメノテッポウに効果を発揮します。

※農薬を使用する際は、ラベルや袋に表示されている使用基準や使用上の注意事項を必ず確認してから使いましょう。